

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 3月20 日

【評価実施概要】

事業所番号	1072500091
法人名	NPO法人沙羅林
事業所名	グループホーム沙羅林
所在地	群馬県安中市松井田町下増田966-5 (電話) 027-393-3170

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5
訪問調査日	平成21年3月11日

【情報提供票より】(21年 2月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	人 常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	階建ての 1 階 ~ 階部分
------	----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代実費 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(2月 28 日現在)

利用者人数	9 名	2 名	女性 7 名
要介護1	名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜井内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一人ひとりの思いや意向を受け止めて、それぞれの生活のリズムを崩さないよう、自由な生活の支援に取り組んでいる。ホームの玄関は施錠しておらず、外部関係者等も自由に入出入りしており、ホーム全体が開放的な雰囲気である。当ホームは既存の建物を利用している関係で各居室の大きさや形は様々で、利用者・家族の好み等を反映した個別性のある居室作りの工夫が見られる。利用者・家族の経済的負担を出来るだけ少なくしたいとの経営者の思いが深く、利用料金の設定の工夫をしている。

【重点項目への取り組み状況】

公報や	① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価の改善点、職員を育てる取り組み・役割、楽しみごと、気晴らしの支援については改善に取り組んだが、地域密着型サービスの理念・評価の意義の理解と活用・プライバシーの確保の徹底・食事を楽しむことの支援等については話し合いは持たれたが、改善の取り組みは見られていない。
	② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	今回の自己評価は管理者と事務職員が作成したものである。
重点項目	③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	会議は安中市所在の同法人経営のグループホームと共同で定期的開催している。ホームからは事業所の状況や利用者の様子等の報告をし、会員同士で情報や意見の交換をしている。協力医による認知症の話・いも煮会・自然史博物館の見学等と併せて開催する等の工夫をし会員の参加を呼び掛けている。
	④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	毎月発行のホーム便りと一緒にそれぞれの利用者の様子を記録したお便りを送付して、ホームでの生活を知ってもらい、家族の思いや要望が話しやすくなるよう工夫している。家族からの要望は出来る限り受け入れて運営に反映させている。重要事項説明書に苦情申し立てについては明記している。
重点項目	⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	公報や運営推進会議のメンバーから地域で開催する行事等の情報を得て、近くの神社のお祭りや老人会の行事に参加している。散歩のときに言葉を交わす等、地元の人達との交流の機会を大切にしている。地域の中学生の体験学習を受け入れたり、小・中学校の運動会の見学に出かけて、出来るだけ地元の人達と接する機会を作っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員は理解しているが、老人荘時代に作成した理念を掲げており、まだ見直しはしていない。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けるサービスを盛り込んだ事業所独自の理念について、現在検討中とのことであるが、出来るだけ早く見直しをして新たな理念を作り上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや職員会議、日々の支援の場等で理念を振り返り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報や運営推進会議のメンバー等から、地域で開催の行事の情報を得て、近くの神社のお祭りや老人会の行事に参加している。又散歩時に言葉を交わす等、地元の人達との交流の機会を大切にしている。地域の中学生の体験学習を受け入れたり、小・中学校の運動会の見学に出かける等、地元の人達と接する機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については職員会議で話し合い、取り組みを期待したい項目、6点のうち地域密着型サービスとしての理念・職員を育てる取り組みの2点については改善に取り組んだ。他の項目については現在検討中である。今回の自己評価は管理者と事務職員が作成したものである。	○	評価は一連の過程を全職員で取り組む事で、日常のケアの振り返りや見直しが可能となり、サービスの質の確保・向上に活かせるので、全職員で取り組んで欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は安中市所在の同法人経営のグループホームと共同で2月に1度開催している。ホームからは事業所の状況・利用者の様子の報告や会員同士の情報や意見の交換をしている。会員から介護計画の内容を知りたい等の要望も出ている。協力医による認知症の話・いも煮会・自然史博物館の見学等と併せて開催する事で、会員の参加を呼び掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の手続きや相談事で市の担当者を訪ねたり、市の担当者から相談を受けたり、お互いに行き来する機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。一度、当法人主催で安中市内のグループホーム職員の情報交換の場を設けたが、次回からの開催を市にお願いしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にホームでの暮らしぶりや健康状態について報告している。又、毎月発行のホーム便りと一緒に、職員が交代で利用者の生活の様子を記したお便りを送っている。緊急な要件のある時は電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員は何でも気楽に話し合える雰囲気作りに配慮しており、家族からの要望等は出来る限り受け入れて運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑える様に努めている。入職希望者には3日間の職場体験後に入職を決めてもらっている。新入職員に対し当初は日勤を4人体制で約1ヵ月、夜勤は3日程、先輩職員が指導しながら共に支援にあたり、利用者に対するダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の外部調査の結果を踏まえて、改善に取り組み、段階に応じて実務者研修・基礎研修・身体拘束やウイルス等の研修等を受講しており、受講者は職員会議で参考資料をコピーして配布、全職員に内容を説明している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、グループホーム大会等に参加している。安中市内のグループホーム職員だけの勉強会を一度開催しており、次回からは市主催での開催をお願いしている。法人内のグループホーム間で交換研修を実施しお互いに学びながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学してもらい、利用者と話をしてもらい、ホームの雰囲気や特徴を知ってもらっている。本人の事情により職員が訪問して話を聴くこともある。入居後は利用者の思いの聴き取り、家族等の協力を得ながら徐々に馴染んでもらうよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	ない対応を 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々のペースに合わせた生活支援を考慮し、一方的な関係にならないよう、利用者職員が共に楽しみながら生活する環境作りを工夫している。食材の調理の仕方・風邪の時の対処法など利用者から学ぶことが多い。又、利用者が庭をきれいに掃除する等、日常的に支えあう関係が構築されている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望等を尊重し、生活のリズムを崩さない自由な生活を応援しており、日常生活の中で出来ることや好きなことを把握し、日々のケアに活かしている。意思疎通の困難な場合は、声かけや問いかけ時の反応や表情などから、その時の気持ちを汲み取る様になっている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意向を踏まえて、計画作成担当者は担当職員から利用者の日頃の様子・体調などの情報を聴き、まとめたものを会議で話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には月1回のモニタリングと3月に1回の見直しを行っている。状態の変化に伴い、随時、現状に即した見直しをして、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて、各種手続きの代行・通院支援・買い物同行・お花見など、柔軟な支援体制が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医が月1回、訪問診療しており、特に変化のない場合は家族の訪問時に、変化のある時には電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療関係者の意向を踏まえて、事業所としての終末に対する対応方針を定めてあり、家族には説明している。又、重度化の場合の対応について家族の意向を確認している。状態の変化がある毎に、本人の思いや家族の気持ちの変化等を考えながら支援に繋いでいる。今年度は2回、看取りを経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応、個人情報の取り扱いや記録等の管理については、日々の申し送り時や職員会議等で話し合っている。トイレ入口にカーテンがあるが中の様子が見えることがある。	○	個人のプライバシーや尊厳を守るということからも、トイレ入口のカーテンのかけ方の工夫をして欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を心掛け、時間を区切った過ごし方はしていない。起床や就寝の時間・利用者同士のおしゃべり・テレビ観賞・読書など、一人ひとりが自分のペースに合わせて生活出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用した食事(利用者の好みを考慮)を提供しているが、誕生会や行事の時等にはちらし寿司やペルー料理など利用者の要望等も取り入れて食事が楽しいものになるよう工夫している。法人の考えで利用者と職員と一緒に食事を摂っていない。	○	法人としての考えもあると思うが、少なくとも職員一人は利用者と一緒に食事を摂れるよう検討して欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回、午後の入浴となっているが、一人ひとりの意向や体調に合わせていつでも入浴することが出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は自分のペースで新聞や本を読んだり、利用者同士おしゃべりする等、楽しみや喜びのある日々を過ごしている。又、役割として洗濯物を干したりたたんだり、庭掃除等を受け持ち、張り合いある生活が送れるような支援を工夫している。飼犬と一緒に入居している利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブに出かけたり、庭でお茶を楽しみながら外気浴をする等、出来るだけ戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り等により日中は玄関に施錠しておらず、外部関係者等も自由に出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。運営推進会議においても話し合い、協力についてお願いしている。救命救急についての講習会の開催を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食業者からの献立により、バランスのとれた食事を提供している。食事・水分の摂取量については記録に残し、健康管理に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である食堂兼居間には神棚・絵・置物・ぬいぐるみ・テレビ等が配されて、家庭的で落ち着ける雰囲気作りが工夫されている。日当たりが良く、ゆっくりくつろげる別室にはソファ・テーブル・観葉植物等が置かれ、レクリエーション等を楽しむ場所が用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はそれぞれ馴染みの箆笥やソファ・写真・観葉植物等を持ち込んでおり、一人ひとりの好みにそった個性のある居室が工夫されている。		